

東葉高速線の新駅整備についての説明会 質疑応答の概要

※（東）は東葉高速鉄道が、（市）は船橋市が回答した内容です。

○新駅の運営について

Q：東葉高速鉄道及び船橋市は新駅が設置されることでそれぞれどういったメリットを期待しているのでしょうか。

A（東）：東葉高速鉄道としては、沿線の交通利便の向上と長期的な経営基盤の強化に資するもの地域の発展に寄与するものと考えています。

（市）：船橋市としては、海老川上流地区まちづくりの核となるものであり、同地区の発展に大きな役割を果たすほか、新駅が新たな交通拠点となることから、海老川上流地区に限らず広く市民の皆様の交通利便性の向上に寄与するものと考えています。

Q：新駅の運営に関するランニングコストはいくらでしょうか。また、どのくらいの利用があれば、新駅の採算が取れるのでしょうか。

A（東）：弊社では、毎年度、会社の中長期的な損益収支を試算しておりますが、路線全体にわたるランニングコストもあることから、新駅を含む全駅について、駅ごとの費用算出は行っていません。一方、新駅設置が経営上適切であるか確認するため、新駅を設置した場合の会社全体の損益収支と設置しなかった場合の会社全体の損益収支の差から便宜的に新駅分の損益を算出した結果、開業年度からマイナスとならなかったため、新駅を設置することで経営上の不利は生じないものと考えています。

○工事費について

Q：新駅について、船橋市からいくら出資を受けるのでしょうか。

A（東）：船橋市から全額負担いただけるという条件の基、令和元年12月に新駅設置の要望を受けております。

Q：工事受託事業者との契約額はいくらでしょうか。また、この契約額が増額する可能性はあるのでしょうか。

A（東）：令和6年12月に株式会社大林組と57億9000万円（税抜）で土木・建築工事についての契約を締結しています。この価格は、設計を踏まえたものであり、今後、現場調査を行った結果、設計段階以上の地盤改良が必要となった場合や掘削した結果、埋設物の撤去が必要になった場合など、設計変更が一切ないとは現時点では申し上げられません。なお、現時点での契約は土木・建築工事のみで、今後電気工事に関する契約などが発生します。

Q：船橋市として、現時点では、新駅工事費の上限はわからないということでしょうか。上限を上回った場合、市ではどのような手続きが取られるのでしょうか。

A（市）：本市と東葉高速鉄道との間で締結している基本協定の中で計画予算を定めています。計画予算は、市議会から承認をいただいていることから、これを上回った場合は、改めて市議会にお諮りします。

Q：東葉高速鉄道において、過去に市から全額負担を受けて建設した駅はありますかでしょうか。

A（東）：ありません。なお、村上駅については、当時の区画整理組合から全額、船橋日大前駅については、日本大学と住宅・都市整備公団（現在の独立行政法人都市再生機構）から全額負担をいただき建設されたものです。

○工事内容について

Q：工事をしていく上で列車が運休することはありますか。

A（東）：現在は運休を伴う工事は予定しておらず、列車運行と工事は並行して行われます。

Q：豪雨について、どのような想定・対策がされているのでしょうか。

A（東）：船橋市によるシミュレーション結果に基づき、年超過確率 1/50 の雨に対しては、想定される浸水に対応できるよう、駅舎については止水板、駅舎周りについてはコンクリートを立ち上げるなどして駅舎を守る対策をしています。

Q：新駅の建設予定地は軟弱地盤が続いている場所ですが、どのような地震対策がされているのでしょうか。

A（東）：ボーリング調査を行った結果、軟弱地盤であることを確認しているため、国土交通省が出している耐震設計基準を基に基礎工事の場所打ち杭の工程で支持層がある深さ 25メートルくらいまで基礎を埋めて構造物を支えられる構造として工事を進めていく予定です。

Q：耐震設計のレベル 1・2 においてどのような想定をされているのでしょうか。

A（東）：国土交通省鉄道局の耐震設計の標準に L2 地震動にも耐えられるよう設計するよう定められており、これに基づき構造物はその震度にも耐えられる設計としています。

Q：調整池の設置について、どのように進捗しているのでしょうか。

A（市）：調整池と鉄道の関係については、当然東葉高速鉄道の鉄道運行に支障がないよう、今後関係者間で協議を進めていきます。

Q：新駅の東葉勝田台方面で接道予定とありますが、これは都市計画道路の設置が決定済という前提で設計されたのでしょうか。

A（東）：そのとおりです。

Q：新駅にエレベーターとエスカレーターはどのように設置される予定でしょうか。

A（東）：エレベーターは各ホームに1基、エスカレーターは各ホームに上り・下り各1基で2基、両ホームで合計4基が設置予定です。

○その他

Q：なぜ海老川上流地区でまちづくりを行う必要があるのでしょうか。

A（市）：海老川上流地区は市の中央部に位置しており、市の中心地にも近く東葉高速線が東西に走る地理的な利点を有していることから、人が行き交う魅力あふれる拠点として重要な役割が期待される地区であると考えています。一方、休耕地が増えるとともに、宅地や墓地、資材置き場、作業場等が混在した土地利用が進んでおり、これを放置し続けると耕作放棄地などの増加による周辺環境への影響や開発に該当しない土地利用により、例えば雨水対策が講じられないまま舗装される等、海老川下流地区に影響を及ぼす可能性があることから、同地区において計画的な土地地区画整理事業を進める必要があり、その核となる新駅についても整備が必要であると考えています。

Q：船橋市として浸水対策をどのように考えているのでしょうか。

A（市）：新駅の事業と合わせて雨水対策の事業について同時に進めていく予定です。